（事前Ｃ）

評価委員会総合評価

研究課題名：火山活動評価手法の高度化に基づく火山活動度レベル化に関する研究（仮題）
評価委員
**　委員長：平　啓介**
**　委　員：石田　瑞穂、小室　広佐子、田中　正之、泊　次郎、渡辺　秀文**
評価年月日：平成１７年　３月　４日

１．　総合評価

（１）実施の可否　■　可　□　否
（２）修正の必要の有無　□　修正の必要あり　■　修正の必要なし

２．　総合所見

より精度の高い火山活動度レベルの判定は、防災対応に必須のものである。レベルを上げて減災を図るのはもちろん、的確にレベルを下げて、社会経済上の損失を低減させるためにも必須である。

レベル判定は、防災担当の自治体担当者個人の経験や能力に負うところを軽減することができるという意味でも、おおいに期待されている。

地表での観察や経験則に加えて、火山の「内診」が科学的に行われれば、防災対応に大いに寄与すると思われる。また、本研究によりマグマの貫入と噴火との関連の解明の進展が期待される。

上記の観点において、本研究は科学的、社会的意義の高い研究であると判断でき、全評価委員より研究計画を修正することなく実施すべきと評価されていることから、積極的に推進していただきたい。

ただし、題名からはすでに平成 15 年度から公表されている「火山のレベル化」をさらに科学的に客観化、高精度化する本研究の目的が読み取りにくいため、研究課題名の変更を検討していただきたい。また、観測の高度化に関し、対象火山を絞り研究を集中して実施することにより効果的に研究を進めていただきたい。さらには、人工地震のアレイ観測で地下深部の探査の可能性など、将来を見通した研究も含め、実施にあたり地殻変動の精密な解析に必要な、火山体地下の弾性常数構造を精密に推定するための具体的な方策について、事前の十分な検討を行うとともに、過去の火山噴火に関する事例解析について実施する事が望ましいと考える。